

空蝉

- 光源氏を拒んだ女性
  - 光源氏との一夜の過ち
    - 人妻という立場から苦悩
    - なるべく光源氏からのアプローチには応じず
  - 
    名前の由来
    - 光源氏が再び訪れた夜
    - 空蝉は上着だけを残して逃げ出す
    - ⇒ 蝉の抜け殻になぞらえらる
  - 始めて拒まれた光源氏
    - 悔しさや切なさ
    - 同時に空蝉への思いが募る
- 立場をわきまえる謙虚さ
  - 低い身分 — 光源氏との恋愛は自分には相応しくない
  - 夫への誠実さ
    - 歳の離れた夫を愛せずにいた
    - それでも人妻としての道は守る
    - ⇒ だから光源氏を拒み続ける
  - 
    光源氏の反応
    - 当初は空蝉を中流階級の女性だと侮っていた
    - その後、空蝉の品格に考えを改める
- 憂いに満ちた生涯
  - 多くの憂い
    - 父の死を機に、望んでいた宮仕えも諦める
    - 愛情に乏しく寂しい結婚生活
  - 
    夫の死後、出家
    - 世俗の悩みから逃れるため
    - 同時に新たな孤独との闘いでもあった
    - ⇒ 最終的には光源氏の邸宅に引き取られる